

研究論文

LMSを用いたキャリア教育実践の研究

穂屋下 茂* ・ 丹野 駿**

Study of Practice for Career Education Using LMS

Shigeru HOYASHITA*, Shun TANNO**

【要約】

本研究では、1科目（4日間の集中講義）において、LMS利用と協同学習の手法を融合させ、そこにキャリアデザインの要素を取り入れる試みを行った。また自分の将来像を描くためにこれまでの自分を知り、自分の好きなこと、強みや弱み、及び社会で求められる力を認識したり、仮想の学生の人生シナリオを作成したりし、各自の学生生活の振り返りや将来設計に役立たせることも試みた。アンケートの分析結果やレポート等から、本研究のような授業デザインをもっと他の科目等に組み入れるとキャリア教育がより効果的になることがうかがえた。

【キーワード】

ICT活用, LMS, キャリア教育, アクティブ・ラーニング, 協同学習

1. はじめに

グローバル化や情報化の進展、少子高齢化などの社会の急激な変化にともない、労働市場や就業状況の流動化、情報流通の加速化や価値観の急速な変化など、将来の予測が困難な時代が到来しつつある。このような社会状況において、大学にはこれからの社会を担い、時代を切り拓く力のある学生の育成が求められている。そのため、初年次教育として学生の学士力及び卒業後の就業力を考えるキャリア教育の導入が必要になってきている。

本研究では、パソコンや学習管理システム(LMS: Learning Management System)といったICTの活用と協同学習の手法を融合させ、そこにキャリアデザインの要素を取り入れる試みを行った。今後の自分の将来像を描くために、これまでの自分を知り、自分の好きなこと、強みや弱み、また社会で求められる力は何かなど、様々なアンケートを介して自分を知る機会を与えた。また、仮想の学生Xの人生シナリオを作成することによって、学生自身の振り返りや将来設計に役立たせた。本稿では、

これらの試みについて報告する。

2. 自分の現状を知ること

大学に入学したけれど、自分は何ができるのか、将来自分は何をしたいのか、何ができるようにならないといけないのか、そのために大学生活をどのように過ごさなければならないのか、大半の学生が深く考えないまま卒業しているのではないだろうか。卒業研究が終わる段階になって、「もっとちゃんと勉強すればよかった！」と後悔していた学生の話も度々耳にする。そうならないためには、学生生活のタイムマネジメントなどを介して、自分を常日頃から振り返り、現状を分析してみる習慣を養うことが肝要である。

自分の現状（知識・スキルのみでなく、社会で活動するために必要な様々な能力）を知り、それを素直に受け止めることがキャリアデザインの第一歩となる。すなわち、卒業後何をしたいのか、なりたい自分に向けて一步一步踏み出していくためには改めて自分を深く見つめ直す必要がある。

*佐賀大学全学教育機構（クリエイティブ・ラーニングセンター）

**佐賀大学文化教育学部

大事なことは、学生生活においても社会に出てからも、常に見つめ直す習慣をつけることであろう。社会は絶えず変化しており、求められる能力も変化しているため、社会の変化に対応できる就業力を学生のうちに身に付けておくべきである。

就業力は、単なる就職する力（就職試験に受かる力）ではなく、卒業後も自己の資質を向上させ、社会的にも職業的にも自立を図るために必要な能力である。社会が求める力としては、経済産業省の「社会人基礎力」⁽¹⁾がある。また、文部科学省も「学士力」⁽²⁾を発表し、各大学に特色ある学士力を作成させた。社会人基礎力と学士力の項目を比較したものを図1に示す。佐賀大学にも「佐賀大学学士力」⁽³⁾が作成されている。いわば、学生と大学との間の学力質保証の契約書みたいなものである。

自分を知る方法としては、自分だけで考えるのではなく、自分の周りの人々とコミュニケーションを取りながら、自分から見える自分だけでなく他者から見える自分も知ること、様々なことに気づく方法もある。「ジョハリの窓」⁽⁴⁾は、①Open Window（自分も他者も知っている自分）、②Blind Window（自分は知らないが他人は知っている自分）、③Hidden Window（自分は知っているが他人は知らない自分）、④Unknown Window（自分も他人も気づいていない自分）の4つの窓で区分されている。グループワーク等では、他者の意見やコメントを聴くことで、自分の現状に気づくことにより自分を

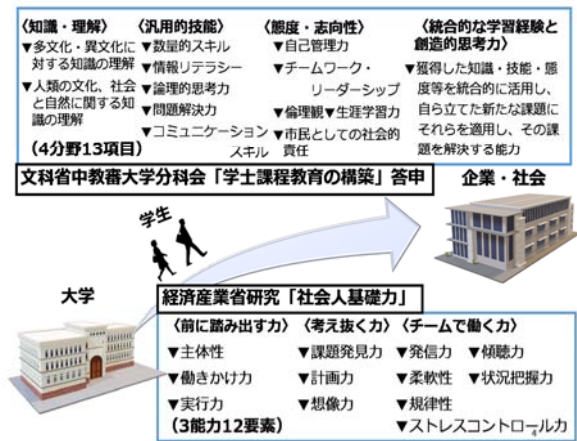


図1 「社会人基礎力」と「学士力」の対比

見直すことができる。それは、新たなモノ・コトに挑戦していくきっかけになるかもしれない。アンケートの項目は、これまで自分を深く考えたことのない学生にとって、何をどのように考えればいいのか大きなヒントを与える。

本研究では、いくつかのアンケートに回答しつつ、個人ワークやグループワークを行った。学習者特性診断調査のための「学修観診断テスト」、「強みを伸ばす活動」や「社会で求められる力」についての調査も行った。学修観診断テストは文部科学省の大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基礎システムを活用した主体的学びの促進」⁽⁵⁾で試作したものである。「強みを伸ばす活動」や「社会で求められる力」は参考文献⁽⁶⁾を参考に試行したものである。

アンケートによる調査は、LMS (Moodle) のフィ

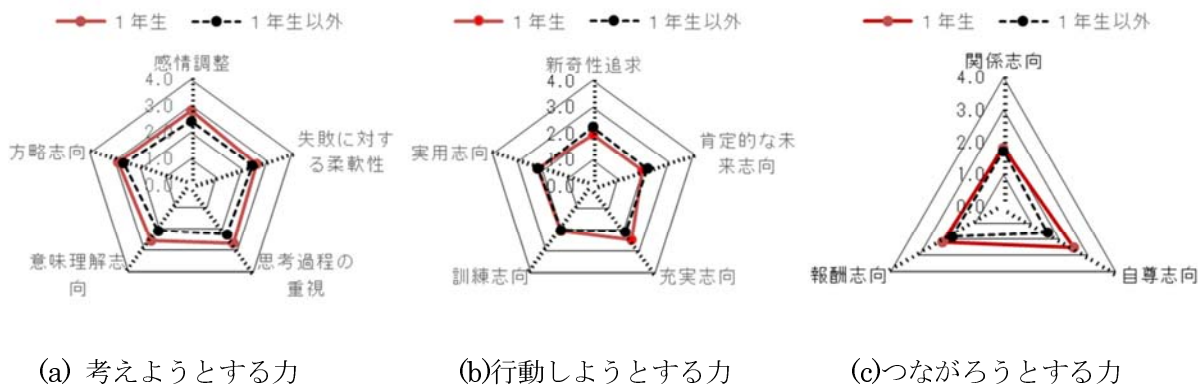


図2 学修観診断テスト（1年生16名、1年生以外18名の各平均）

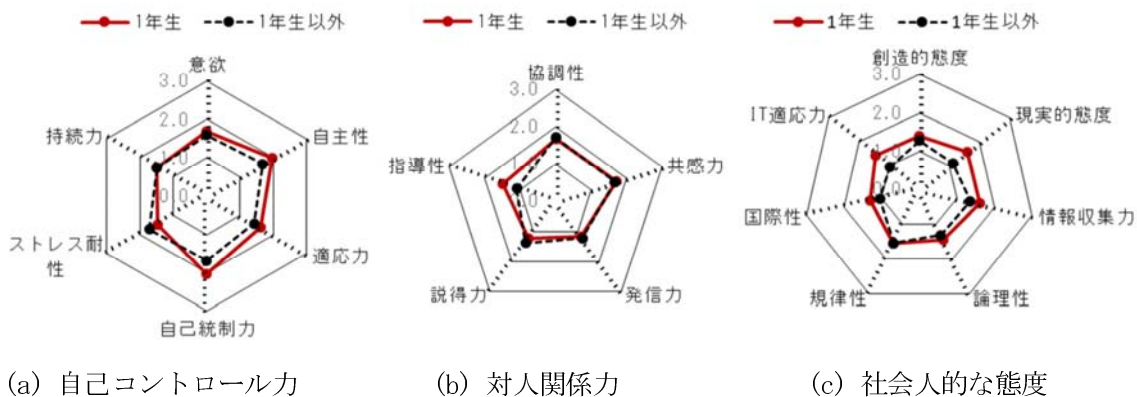


図3 「社会で求められる力」に対して（1年生17名，1年生以外20名の各平均）

ードバックを利用して行った。対象者は34～37名の学生で、1年生と1年生以外の数がほぼ半々であった。学修観診断テストの結果を図2に示す。学習において、「考えようとする力」、「行動しようとする力」、「つながろうとする力」で示している。それぞれをレーダーチャートで示した。

「社会で求められる力」についての結果を図3に示す。「社会で求められる力」は、「自己コントロール力」、「対人関係力」、「社会人的な態度」に分け、それぞれレーダーチャートで示した。

「強みを伸ばす活動」についての結果をレーダーチャートで図4に示す。「強みを伸ばす活動」としては、「コミュニケーション力」、「計画性と遂行性」、「問題の探求心」、「論理的思考力」、「知識技能」の5分野で示した。

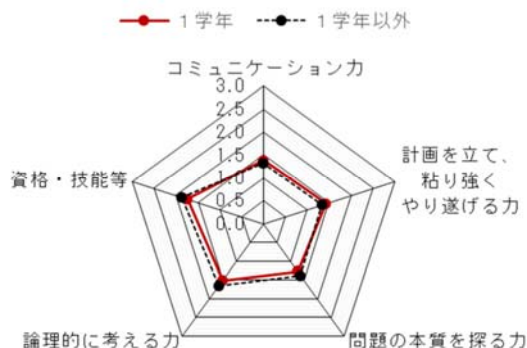


図4 「強みとなる力」について

表1 振り返りシートの項目

<p>自分史の本をプロデュースするために、自分を振り返ってみましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「好きなこと」を5つ以上あげてみましょう (2) 「得意なこと」を5つ以上あげてみましょう (3) 「自慢できること」を5つ以上あげてみましょう (4) 「将来、就いてみたい仕事」を2つ以上あげてみましょう (5) (4)の仕事に求められている能力はそれぞれ何でしょうか (6) じゃ、あなたはこれから何をしないといけないでしょうか (7) 学生生活のこれまでを振り返って、あらためなければいけないことは何ですか？ (8) これからの目標をあげてみましょう (9) あなたは今、佐賀大学に入学して満足していますか？ (10) 佐賀大学は、あなたにとって「面倒見の良い大学」といえますか？ (11) 今、佐賀大学に何かして欲しいことがありますか。それは何ですか？ (12) 「タイムマネジメント」って何でしょう (13) PDCAサイクルを説明してください



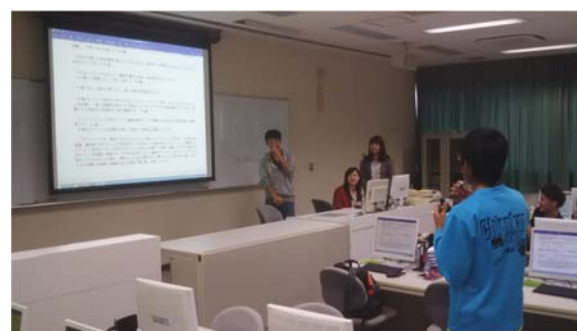
(a) グループワークの始まりは自己紹介から



(b) 自分の意見をまとめる（個人ワーク）



(c) ディスカッション（グループワーク）



(d) プレゼンテーションと質疑応答

写真1 プレゼンテーションまでのいろいろな活動

3. 自分史をプロデュースする（個人ワーク）

自分の人生を振り返り、学生の意欲を引き出すために、自分史について書く目的をもってこれまでの人生を振り返るところから始めた。これまで何を学んできたか、何ができるか、これから何をしたいか、自分にとって大きな出来事は何だったか、なぜそれが自分にとって大きいのか否か。好きなこと、興味関心のあること、面白いと感じることは何か、自分の強みや得意なことは何か。その他、自分の歴史から見えてくる「自分らしさ」（人物像）は何だろうか、などをワークシート（表1）に記入し、次に自分史についてその概要を書いた。

4. 人生シナリオを描く（体験する）

学生自身の学生生活を内省化させる目的で、ある学生Xの人生シナリオを描くことを試みた。

まず、学生Xを設定する。例えば、氏名、年齢、性別、家族構成、家の事情、地域環境、将来の夢（したい仕事）など。

考慮すべき条件としては、入学から卒業10年後までの約15年間を考え、①グローバルに仕事できる人になること、②ハッピーになること。特に、結果でなく過程を大事に描きながら、学生Xが夢を実現するための学生生活及び卒業後のシナリオを作成するようにした。

チーム分けしたあと、はじめに協同学習の基本である自己紹介を行った（写真(a)）。個人ワーク（写真(b)）後、グループワークにおいて、Wordに15年間の人生シナリオをまとめ（写真(c)）、完成したら所定の場所（Moodleのフォーラムを利用）にアップロードを行うようにした。Moodleの「フォーラム」は「課題」と異なり、学生も自由に閲覧や書き込み、資料のアップロードが可能であるため、クラスルームの情報共有には適している。チームG8の学生Xの設定と15年間の人生シナリオの例を表2-1、表2-2に示す。

チームごとにプレゼンテーション及び質疑応答を行った（写真(d)）。1チームのプレゼンテーション時間は5分間、質疑応答時間は2分間とした。

表 2-1 学生設定の例（チーム G8）

<p>【学生Xの設定】 氏名、年齢、性別、家族構成、家の事情、地域環境、その他、将来の夢（したい仕事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 神田とおる、22歳、男性 ● 三浪して佐賀大学医学部医学科に入学した大学1年生 ● 趣味はギターを弾くことで、将来の夢はミュージシャン ● 家族構成は看護師の母と、外科医の父、医者を目指して去年九大の医学部に一発合格した二人の双子の妹がいる ● 両親から子供は医学部に進学して将来のための勉強に集中してもらうためにバイトは原則禁止 ● 高級住宅地の一等地の一軒家に家族で住んでおり、妹は近所のセレブと仲が良いが、とおるは少し孤立気味 ● 将来の夢はミュージシャンで、本人はGReeeeNの前例もあるため可能性がないとは思っていない

表 2-2 学生 X 君の 15 年間の人生シナリオ

<ul style="list-style-type: none"> ● 入学してから医師になるための勉強をしてみたものの、内容があまりにも難しかったことに加え、ミュージシャンの夢が諦められず、医学部で出会った仲間とともに音楽の道を決意し、大学2年で中退した（24歳） ● 大学を中退した後は福岡で路上ライブをするが、初めの2年間は立ち止まってくれる人はほとんどいない（26歳）。小さなイベントでは少しずつ観客が集まり始め、認知度が上がってきた ● より厳しい環境におくために上京した（28歳） ● 31歳で出した曲が大衆うけし、後にとおるの代表曲になった。32歳でレコード会社から声がかかる。デビューシングル「首をしめて」を出すと大ヒットを記録し、後に主題歌を担当した不倫をテーマとしたドラマも高視聴率だったため、話題となり若者から圧倒的な人気を獲得する（34歳） ● メジャーデビュー5周年として、念願の単独ライブを開催。その年の紅白歌合戦に出場を果たす（37歳） ● 今後はグローバルな活躍を目指して海外への進出を目標としている <ul style="list-style-type: none"> ● プライベートでは、福岡で人が立ち止まらない路上ライブをしている時や、上京後も金銭面、精神面で支えてくれた学生時代からの彼女に34歳の時にプロポーズし、結婚する ● デビュー5周年のときに子供が生まれたとの知らせを聞くと同時に単独ライブ中、新曲「生み立て」を初披露 ● 両親とは、大学中退の話でもめ、連絡をとらずにいたが、メディアにも取り上げられることが増え、両親もとおるの活躍を知り、親子としての絆を取り戻す ● そのときに両親への謝罪と感謝を込めた新曲「親子曇」を歌っている
--

また、プレゼンテーションは各自20問から成る評価シートで評価することにした。評価シートの回答はフィードバックを利用して行った。

プレゼンテーションの時には、各パソコンは一斉画面に切り替えて聞き手が作業をできないようにした。質疑応答後は一斉画面から通常画面に戻し、評価シートに回答を行えるようにした。評価は、自分たちのプレゼンテーションも自己評価するようにした。学生による評価シートの結果（チームG8とG5）を並べて図5に示す。

すべてのチームの発表が終えたところで、ベスト3を選び、その選定理由も書いた。ベスト3の結果を

図6に示す。各チームのポイント P_i は、 $P_i = \{(第1位の投票数) \times 3 + (第2位の投票数) \times 2 + (第3位の投票数)\} / \sum P_i \times 100$ から計算した。

ベスト1を選んだ理由としては、「話の流れがわかりやすかった」、「シナリオが細かく設定しており、内容も充実していた」、「発表の仕方や本人の気持ちなど道筋がたてられ、ユーモアにもあふれていておもしろかった」、「話のストーリーがしっかりしていて現実味もあった」、「具体的な例を挙げ、実現不可能でないことを示していて感心した」、「自分たちのアイデアで最大限人生シナリオを表現できていた」、「家族構成が効いていて曲名にも

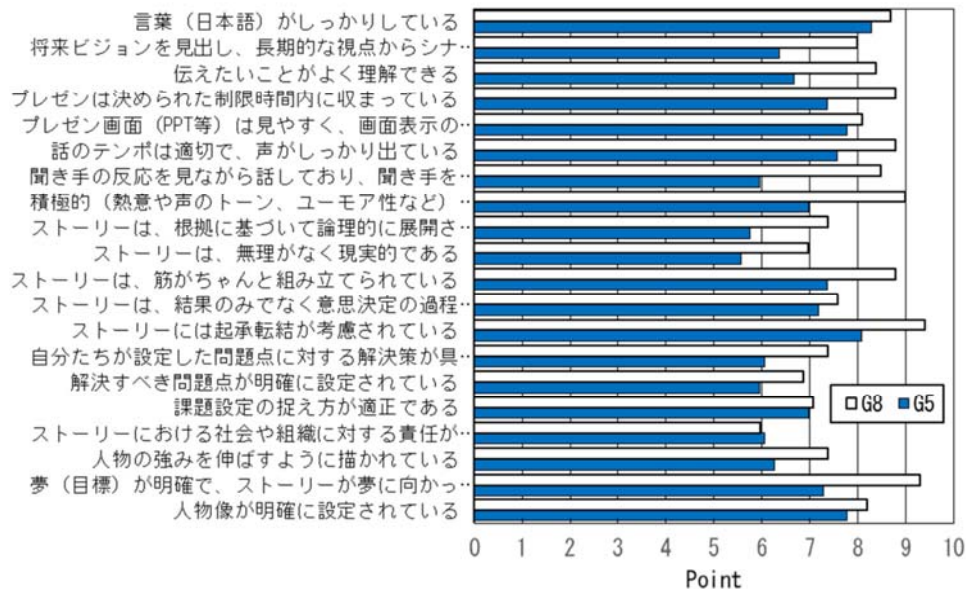


図5 評価シートの2つのチーム（G8とG5）の比較

こだわりがあって筋道立っていた」、「人物設定もシナリオも細かくてわかりやすかった」、「音楽のタイトルのセンスが良かった」などの意見や感想などがあつた。

評価シートによるPPT作成も含むプレゼンテーション評価とベスト3選出によって計算した得点を比較したものを図7に示す。ベスト3選出では、3つしか選べないことから、下位チームに関してはポイント数が少ないために十分な評価ではない。しかし上位チームの傾向は合っていることが、非常に強調されている。

5. 結果と考察

授業の第1回目の始めに次のような4つの質問を行った。①本科目を履修した動機はなにか（複数選択可）②受講前にシラバスで内容を確認したか ③今までにLMSを使用したがあるか（複数選択可）④自宅でのインターネットとパソコン環境はどうか。

受講の動機について、「単位取得のため」が35名、「興味深い内容である」が14名、「時間的に余裕があつた」が12名、「キャリアデザインは必要だから」が6名であつた。1年生とそのほかの学年での比率をみてみると、「単位取得のため」については、それぞれ1年生は47%、1年生以外は71%であつた。「興味深い内容」については、1年生は53%、1年生以外は29%であつた。

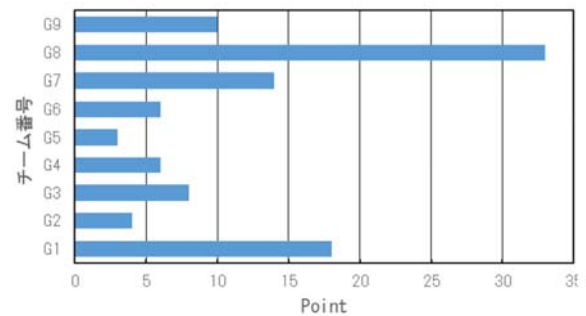


図6 投票によるポイント数

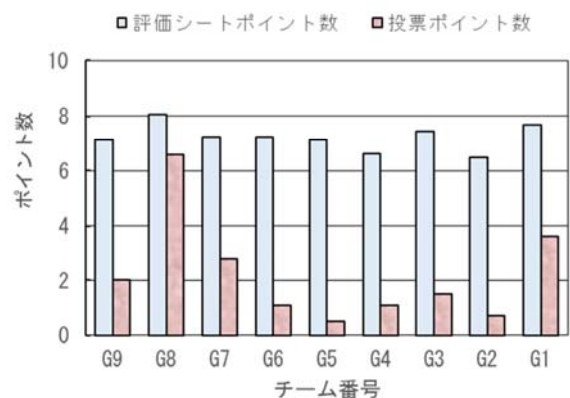


図7 評価シートと投票による評価の差異

本学は教養科目や専門科目を問わず、オンラインシラバスが100%揃っている。受講前にシラバスで内容を確認したについては、「シラバスの内容を見て選択した」が21%、「後でシラバスを確認した」が49%、「シラバスは見えていない」が30%であつた。

LMSを使用した経験（eラーニングで学習した経験）については、「ネット授業を受講した」が20%、「対面授業で科目履修サイトを使用した」が51%、「LMSを使用して学習したことがある」が2%、「LMSを使用して学習したことがない」が27%であった。

自宅のWeb環境については、「インターネットに繋がったパソコンがある」が90%、「インターネット環境はないがパソコンはある」が10%で、自宅にパソコンのない人はいなかった。

本授業は、1日4校時ずつ、4日間連続で行った集中講義（16回目は期末試験）であるが、毎日最後に、①授業に対する取組、②授業内容の理解度、③授業の満足度について聞いた。

授業に対する取組についての結果を図8に示す。「授業に集中できた」、「少しでも集中できないときがあったが、ほぼ集中できた」が多いが、日を迫うごとに「集中できた」方に分布がシフトしている。

授業内容の理解度についての結果を図9に示す。「よく理解できた」、「ほぼ理解できた」がほとんどを占めており、日を迫うごとに「よく理解できた」の方に分布がシフトしている。

授業の満足度についての結果を図10に示す。「非常に満足した」、「満足した」も多いが、「ふつう」も多い。それでも日を迫うごとに、「ふつう」は減り、「非常に満足した」が著しく増えている。

以上のように、履修学生のアンケート結果を見る限り、学生がLMSを利用して個人ワークを行いつつも、「授業中に話を積極的にする」ことにより、「眠らない、または眠れない授業」となり、学生は授業に満足していたと考察される。

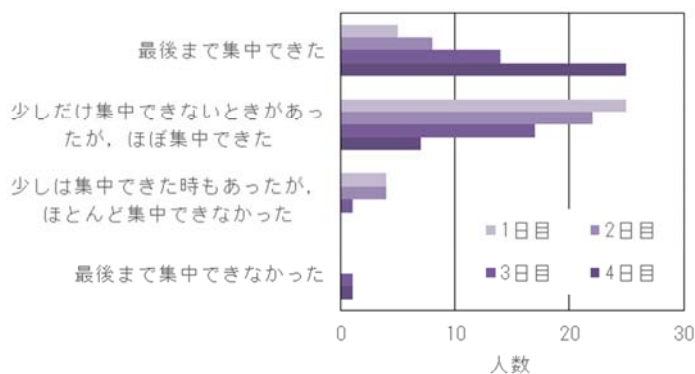


図8 授業に対する取組について

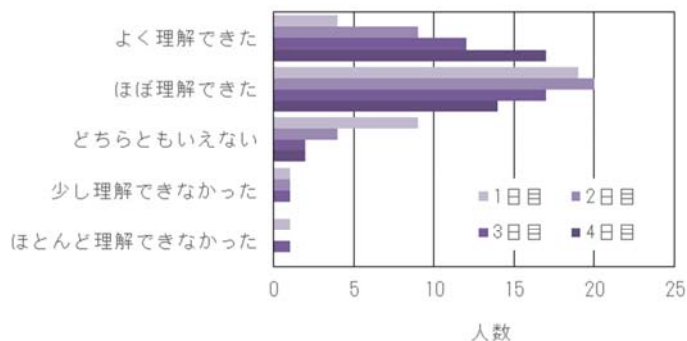


図9 授業内容の理解度

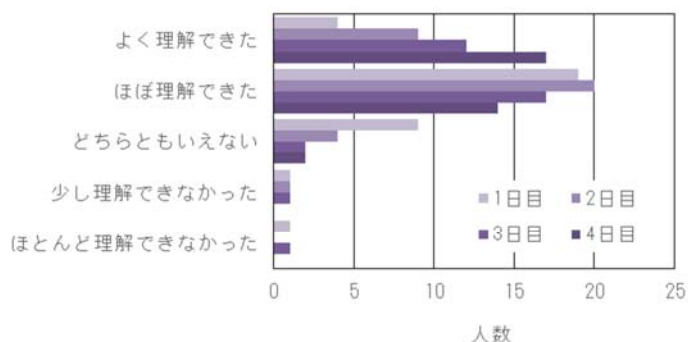


図10 授業の満足度

5. まとめ

本研究では、1科目（4日間の集中講義）において、LMS利用と協同学習の手法を融合させ、そこにキャリアデザインの要素を取り入れる試みを行った。自分の将来像を描くために、これまでの自分を知り、自分の好きなこと、強みや弱み、及び社会で求められる力を認識したり、人生シナリオを作成したりし、学生生活の振り返りや将来設計に

役立たせた。

その結果、LMSを利用した個人学習と授業中に積極的に話合える機会を多々設けることにより、自らが考える学習、すなわち主体的学びが実現でき、かつ学生はそれに満足することが確認できた。

本研究のように、LMS利用と協同学習の手法を融合させた授業デザインを、もっと他の科目等に組み入れると大学教育がもっと効果的になることが推測された。

謝辞

本研究を推進するにあたり、多大のご協力をいただいた全学教育機構クリエイティブ・ラーニングセンターの教職員の皆様及び本研究の推進に協力してもらった学生諸君に感謝の意を表す。なお、本研究の一部は、平成26年度科学研究費補助金(基盤研究(B)一般、研究課題名：eラーニングと協同学習を効果的に利用して反転授業を促す教育改革の研究)の補助により行った。

参考文献

- (1) 経済産業省：社会人基礎力の普及・促進：
<http://www2.minato-hanazono.ed.jp/~hanazono/education/kisoryoku.pdf> (2017/10/15アクセス)
- (2) 中央教育審議会(答申：平成20年12月24日)：
学士力学士課程教育の構築に向けて：
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf (2017/10/15アクセス)
- (3) 佐賀大学 学士力：
<https://www.saga-u.ac.jp/koho/2010gakushiryoku.htm> (2017/10/15アクセス)
- (4) ジョハリの窓で自己分析：
https://potect.a.com/utilization/johari_window/
(2017/10/15アクセス)
- (5) 学士力養成のための共通基礎システムを活用した主体的学びの促進：
http://eight-univ.spub.chitose.ac.jp/5_organization.html (2017年10月11アクセス)
- (6) マイキャリアノート I, ベネッセ i-キャリア